

区民と区長の対話集会
「さとことブレスト（補助 133 号線周辺地域）」（第 2 回）

令和 5 年 12 月 10 日（日）

杉並区都市整備部 都市計画道路担当

◆第2回 さとことブレスト（補助133号線周辺地域）

開催場所：令和5年12月10日（日） 午後1時00分～午後3時00分

場所：杉並区役所本庁舎西棟6階 第5・6会議室

参加対象者：無作為抽出した成田東3～5丁目、成田西3～4丁目地域の方。

一般応募（区内在住・在勤・在学）の方

参加者人数：16名（4名欠席）

◆ブレインストーミング

1班5人の4班に分かれて、ブレスト形式（※）により実施。

区長は各班を回りながらブレストに参加。

○次の3点の内容を中心にブレスト

①都市計画道路補助133号線（中杉通り）について、

もっと知りたい事、疑問に感じていること

②よりよいまちづくりのために、どのような道路整備が必要でしょうか

③その他、今日のテーマに関連するアイデア・意見など

○参加者から一言

○講評

※ブレスト：ブレインストーミングの略。あるテーマについて数人で自由なアイデアを出し合う会議の方法です。

岸本区長の発言内容（挨拶）

皆さん、こんにちは。区長の岸本聡子です。

本日は、ご参加くださり、誠にありがとうございます。

私は区長就任以来、一貫して「対話」を重視して区政に取り組んでいます。

昨年10月からは、まちづくりの中で道路整備を考えるために、自由に意見やアイデアを出してもらった「さとことブレスト」と名付けた対話集会を行っています。西荻窪と高円寺では、既に都市計画道路事業に着手している状況の中で、道路整備に対する不安の声や、事業自体への反対意見、道路整備やまちづくりについて、将来のまちに、何をどう残していくかというような議論をしてきています。

しかし、本日の「さとことブレスト」は、それらとは少し違うということを説明させていただきます。

本日は、都市計画道路補助133号線（中杉通りの延伸計画）周辺地域についての「さとことブレスト」です。今までの西荻窪と高円寺どこが違うかと言いますと、そもそも東京都の事業ということと、そしてまだ事業に着手していないということです。

補助133号線の成田東区間は、東京の都市計画道路の優先整備路線に選定されていて、都による用地測量も進んでいることもあり、地元の皆さんからは不安の声が区に届いています。一方で、早期の道路整備を望む声が届いているのも事実です。そのような状況を踏まえ、なるべく早く地元の皆さんの声をお聞きしたいという主旨で、このような場を企画させていただきました。

本日は、様々なご意見を持った方々が来てくださっていると思います。「さとことブレスト」というブレインストーミングで自由に意見を交換し、他の方々の意見を聞いてみてください。私も各テーブルを回らせていただきます。みなさんと補助133号線の計画だけでなく、住んでいる場所のまちづくり、地域づくりまで発想していければ嬉しいです。

本日は、どうぞよろしく願いいたします。

ブレインストーミングで出たご意見

■A班

<都市計画道路補助133号線（中杉通り）について、もっと知りたい事、疑問に感じていること>

- ・133号線の計画はいつから行うのか。
- ・簡単にできるとは思えない。
- ・新しい建物や崖があり道路をつくるのは大変だと思う。
- ・新しい住宅が多くあり、本当にできるのか疑問。
- ・自然が豊かなところを壊してまで道路をつくる必要があるのか。
- ・今の環境を残してほしい。
- ・雇用も生まれるし、前向きに考えている。
- ・費用は杉並区の税金が使われるのか。
- ・補償はちゃんとされるのか。
- ・メンタルケアも必要になると思う。
- ・今になってなぜ計画を進めようとしているのか。
- ・道路をつくるために公園が潰れてしまうと子供を安心して遊ばせられる場所が無くなってしまう。
- ・防災のためには道路をつくるしか方法がないのか考える必要がある。
- ・木造住宅が密集しているから道路があった方がいいのは事実だと思う。
- ・道路をつくるとどんなメリットがあるのか。
- ・道路をつくると地域コミュニティが分断されてしまう。
- ・道路があれば、南北の移動は便利にはなる。
- ・道路が狭くて、消防車が入っていくのは難しい。
- ・道路があった方がいいのは間違いないが、今住んでいる人がいるから難しい。
- ・133号線の優先整備路線は着工してからどのくらいで完成するのか。
- ・運転する人にはメリットかもしれないが、運転しない人にはデメリットになるのではないのか。
- ・桜の花見をする場や憩いの場が潰れると悲しい。
- ・道路の位置を変更すればいいのではないか。
- ・善福寺川を暗渠にしてその上に道路をつくれなのか。
- ・中杉通りをつくったときになぜ延伸しなかったのか。

<よりよいまちづくりのために、どのような道路整備が必要でしょうか>

- ・歩道と自転車専用レーンをつくってほしい。
- ・歩道がきちんと整備されれば、ウォーキングもできるし、ベンチをつくれれば休憩もできるようになる。

<その他>

- ・自転車で走ると中杉通りのパーキングメーターが邪魔。
- ・パールセンターの店舗への荷下ろしなら車を停めてもいいと思う。
- ・電線を地中化して今の道路を活用すればいいのではないかなと思う。
- ・消防署を増やして防災を強化すればいいのではないかな。

■B班

<都市計画道路補助133号線（中杉通り）について、もっと知りたい事、疑問に感じていること>

- ・70年以上前に決定された計画で、その当時と今とでは状況が違う。
- ・鉄道やバスを含めた交通や自動車の所有率など当時と今の比較をしたうえで、それでも事業を進めようとしているのか。
- ・しっかりと比較をしたうえで区民の多大な犠牲を払ってまで進める必要があると判断したのか。
- ・70年前は田んぼや畑だったところに道路をつくる計画だったものが、人が住む住宅街へと種類が変わってきているのに同じような感覚で計画を進めるのは疑問に感じる。
- ・人口が減って自動車も減っているのに果たして必要なのか。
- ・東京都は防災道路と後付けで理由をつけているが、当時はそんなことは考えていなかった。
- ・防災道路とするのに幅員16mで足りるのか。
- ・立ち退く人の土地だけでなく残された人の家の建て方の補償や計画を考えているのか。
- ・道路をつくった後のまちづくりを東京都はどう考えているのか。
- ・今ある公共施設（税務署、東田中学校など）はどうなるのか。
- ・渋滞の緩和を考えると良いことなのかもしれないが、通過交通が気になる。
- ・東京都は優先整備路線にしているのだから、どっちにしても進めるのだろうなと思っている。
- ・避難場所の近くに大きな道路を通すと物資輸送の点では便利になる。
- ・環七、環八のような抜け道の道路になってしまうのは嫌。
- ・この道路ができないと生活がままならない、ものすごく困る人がいるのか。あったら便利だけで進めるべきではない。
- ・一部だけ土地を取られる人に対しても、今までの生活をできるくらいの補償をしていかないといけない。
- ・この地域が好きで住んでいる人に別の場所に住めというのは行政としてどうなのか。
- ・道路を通して自動車がたくさん通ってCO2が発生することは時代に逆行するものではないか。
- ・今ある道路をどう生かしていくかを考えるべき。
- ・電柱を地中化すれば十分通行しやすい道路になる。
- ・事業を進めて欲しいという人の声を聞いてみたい。
- ・立ち退かなければならない約100軒の人たちを犠牲にしてまでも通さなければならない

道路だという論拠がほしい。

- ・子どもの通学路にわざわざ大きな道路を通すと交通事故の危険性が増えるのではないか。
- ・歩道があることよりも車の通らない狭い道の方が安全ではないか。
- ・すぎ丸が走っているところに大きな道路はいらないのではないか。

<よりよいまちづくりのために、どのような道路整備が必要でしょうか>

- ・ジグザグにして通過交通になりづらい道路としたい。
- ・電柱の地中化の可否の精査（どのくらいセットバックしたら実現できるのか等）。
- ・道路のセットバックに合わせた電柱のセットバック。
- ・大型車進入禁止や時間帯進入禁止などを積極的に取り入れてほしい。
- ・道路よりバス路線を増やしてほしい。
- ・高齢者の足となる交通や通学路に配慮した道路整備をしてほしい。

<その他>

- ・中杉通りは軍用道路から始まった道路で、戦後復興計画の道路だった。
- ・外環の青梅街道部分にICはできるのか。
- ・福祉施設や児童施設を充実させてほしい。
- ・自転車のルール教育をしてほしい。

■C班

<都市計画道路補助133号線（中杉通り）について、もっと知りたい事、疑問に感じていること>

- ・延焼遮断帯では片方には燃え移らないが、もう片方は燃えてしまうから意味がない。
- ・延焼遮断帯としての効果を発揮するには沿道にさらにコンクリートの建物を建てなければならないのでは、際限がない。
- ・交通量予測や交通需要はいつの時代のものか。
- ・防災面で、近くにプラウドシティ阿佐ヶ谷という広い場所もあるので必要ないのではないか。
- ・震災時は消防車も動けないのだから、大切なのは初期消火であり地域のつながりではないか。初期消火などについて積極的に指導してほしい。
- ・道をつくってしまうと、まちが寂れてしまう。
- ・地域の医療機関（成宗診療所）が無くなってしまう。
- ・道路ができて、車を運転する人がいなければ意味がない。
- ・道路をつくる理由がないように感じる。
- ・お金を使うために道路をつくっていると思わざるを得ない。
- ・車が増えている感じはしない。道路計画当時の予測とは違うのではないか。
- ・事故が減ると言うが、計画を説明する資料からは読み取れない。
- ・現状、車が少ない地域なので、道路をつくったら車を呼び込むだけ。
- ・計画の中止ってあり得るのか。あり得ないのであればどのような道路にするのかを考えるべ

きだと思う。

- ・交通量予測は周辺の道路も含めたものを示してほしい。
- ・交通量と交通事故の関係はどうなっているか。
- ・補償が低く生活を再建できない。
- ・家賃2万円台のように安い賃貸もあり、そこに住んでいる人たちは立ち退き後、どこに住めばいいのか。
- ・千歩譲って道路ができて、お金がなければ動けない。
- ・今この計画を動かしたら、どれだけの人にどれだけの影響があるのかを調べていないのではないか。
- ・道路をつくったら輻射熱や雨がしみ込まず環境面もよくないのではないか。
- ・杉並にとってよりよい計画にしてほしい。
- ・今の道路幅で救急車や消防車は入れないのか。
- ・道を通すことは不可欠なのか。
- ・道をつくれれば解決する問題ばかりでない。ソフト面も一緒に考えなければならない。
- ・道をつくらうとすることで、道をつくれれば解決すること以外の問題を隠そうとしていると感じる。
- ・道路整備より耐震化の方が大事だと思う。
- ・震災時どうやって消火するのか。消火器、消火栓はどこにあるのか。
- ・飛び火は何十メートル先までもする。計画している道路(16m)では延焼遮断帯としての規格に合っていない。
- ・ちょうど成熟してきたまちを壊す意味はないし、東京都の大型開発と同じ様なまちになるのは残念。
- ・環境や地域のつながりも無形だけど公共物だと思っているから壊して欲しくない。

<よりよいまちづくりにするために、どのような道路整備が必要でしょうか>

- ・欧米は脱自動車・脱道路が現代の常識ではないのか。
- ・道路整備ではなくソフト面での不燃化や地域の組織作りを進めるべきではないか。
- ・火災が起きた時つながりが生きるまちにしてほしい。
- ・古くなったインフラにお金をかけるのが良いのではないのか。
- ・人が歩ける道を残してほしい。
- ・自転車との共存ができる道にしてほしい。
- ・車が路肩に多く停まっているので自転車で車道を走るのは怖い。
- ・幅が広い道にしてしまうと横断歩道ができてしまい、渡るのにそこまで行かなければならず、お年寄りにとっては大変である。
- ・子どもにとっていいまちでなければ、子育て世帯が入って来なくなり高齢化が進み、まちは縮小傾向になってしまうと思う。将来の人口の流入のためにも、小さな子どもの目線に立った道路を考えていくべき。
- ・歩道の自転車走行を改善してほしい。
- ・自転車は歩道を走ると習ってきた世代がある。だから、新しく歩道のある道路を整備してしまったら、歩道を走る自転車が危険という問題が新たにその地域で生じてしまう。

- ・自転車走行の問題は他に最適な交通手段がないからだと思う。
- ・杉並区には、高い物や大きい物はいらなと思う。
- ・みんなが行きたいと思う所が分散される様なまちづくりをしてほしい。
- ・子ども最優先の道路にしてほしい。

<その他>

- ・五日市街道だって拡幅したけど何も活用されてない。商店だって増えるわけではないし。まちの賑わいだってない。
- ・今回の「よりよいまちづくり」とは誰のためなのか。主語をはっきりさせた方がいいのではないかと思う。

■D班

<都市計画道路補助133号線（中杉通り）について、もっと知りたい事、疑問に感じていること>

- ・この計画は本当に必要なのか。
- ・整備効果の根拠（データ）は何なのか。
- ・環七・環八を改善すれば、補助133号線は不要になるのではないか。
- ・事業に対して、予算が適切なのか。
- ・中止する可能性はあるのか。
- ・いつまでに道路は完成するのか。
- ・今、住んでいる方々は、どうなってしまうのか。どういう補償がなされるのか。
- ・善福寺川緑地はどうなるのか。
- ・この道路は必要なのか。
- ・この計画の目的は何なのか。
- ・今ある緑を壊してほしくない。
- ・環七と環八があるから不要だ。
- ・計画決定されたのは、第一次ベビーブームの時期のため、人口増加を前提にした計画のほずである。
- ・計画決定されてから未だに事業化されていないなら、そこまで必要な道路ではないのではないか。本当に必要な道路なら、もっと早期に整備していたのではないか。
- ・脱炭素・カーボンニュートラルの時代に、なぜ家や自然を壊して道路をつくるのか。
- ・総事業費はいくらか。
- ・世田谷区でも補助133号線の事業は進んでいるのか。
- ・防災に寄与するというのが、その道路が拡がるだけで意味をなすのか。
- ・都合のいいデータを用いて、整備理由をつくっているだけではないか。
- ・優先するべきものはほかにあるのではないか。
- ・子や孫の世代にも今ある緑を残すべきである。
- ・EBPM（証拠に基づく政策立案）を活用して説明してほしい。
- ・都心から近い場所に緑があるのは、杉並の魅力であり、それを自ら壊してしまうのはもっ

たいない。

<よりよいまちづくりのために、どのような道路整備が必要でしょうか>

- このテーマに関する議論をするにはまだ早いのではないか。
- 道路整備ありきのテーマはいかがなものか。
- 1 番目のテーマの議論が煮詰まって、初めてこのテーマについて議論するべきではないか。
- 緑を増やす。
- 今ある緑、自然は、杉並の財産として残してほしい。
- 無電柱化してほしい。
- 50 年後 100 年後、次の世代に役立つものにしなければならない。
- すぎ丸が通る道や交番脇を抜ける道を拡げることにはできないか。部分的に広い道路を増やせないか。
- 狭あい道路で一部建て替えに伴いセットバックすることによって、路線として凸凹している様子が見受けられるが、道路行政として改善することはできないか。

<その他>

- 日本では交通事故防止の観点から信号が多く設置されているが、ドイツではなるべく車が止まらないよう工夫がなされている。車が止まる度にガソリンも消費するし、排気ガスも出るため、環境に悪影響である。
- 日本は、歩行者の危機意識が低い。
- 一旦決めたものは変えられない。根本的な見直しができない。日本の風土そのものを見つめ直す必要がある。杉並区から日本を変えてほしい。
- 杉並区の道路は狭い。
- 区 HP の資料を拝見したときに、情報量が多く読みづらいつと感じた。

参加者からの一言

- ・私は、道路が完成すれば便利だと思う。ただし、100年はかかると思う。
- ・私は、子供3人（小学生2人・幼児1人）の母親をしており、母親目線で保守的な意見しか言えず申し訳なかったですが、子どもたちがのびのびと遊べる憩いの地を大切にしてほしいと思った。
- ・現在の桜の名所は、計画時は田んぼだったと今日初めて知った。事業の優先順位をもう一度考え直した方がいいのではと思った。もともと防災のために広い道路は必要だと思う一方で、計画時と今とでは社会情勢も違い、もともと田んぼだったところが住宅地となっており、本当にこれがやるべきことなのかそうでないのか、計画を0から見直してやるべきなのか、知る人ぞ知る桜の名所にも影響する道路を今つくるべきなのか改めて考える必要があると思った。
- ・議論するには情報が足りない。この事業の必要性、予算、なぜ今やるべきなのか、あまり明確でないまま今日話していたため、全ての疑問に答えたいうえで、もう一度このような話し合いの場を設けないと堂々巡りになるのではないかと思った。今日出た疑問にHP等で答えた上で、また次、同じような対話の場を設けてほしい。
- ・改めて補助133号線は整備する必要がないと思った。住宅街を壊して道路をつくるのは、とんでもないことだと思う。
- ・東京都による大型な都市開発に左右されることなく、杉並区独自のまちづくりを実現しよう。
- ・成田東三丁目の緑豊かな場所を子や孫世代に杉並の財産として残したい。道路はいらない。
- ・杉並区から根本的な考え方を変えてほしい。日本の行政は一度決めたものはほとんど変えないのが今までの流れだと思うが、杉並区から一度決めたことも吟味して必要があれば変えられると日本全国に発信してほしい。トップの意志の強さがそれを変えられると思う。
- ・70年前につくられた計画であり、時代が移り行く中で、補助133号線は本当に必要なのか吟味してほしい。この事業をやるにあたり、立ち退きを強いられる住民がいるとともに、税金を投じるわけだが、道路事業ではなく、福祉等にお金を回すべきではないか。

- ・杉並区は、子育てに力を入れているまちだと思う。補助133号線の計画地内には、中学校、税務署、住宅地、善福寺川緑地等があるが、それらが道路になってしまうと、杉並区での豊かな生活ができなくなってしまうため、計画には反対である。
- ・70年前につくられた計画であり、モータリゼーションを前提としたものであるため、是非とも見直してほしい。
- ・復興や高度経済成長期も終わり、心豊かに生きる時代に突入していると思うが、車の台数も免許取得者も減っているこの時代に新しい道路が本当に必要なのか。今は、車よりも ترام（路面電車やLRT等の総称）に人の関心があると思う。住民の犠牲を払って、通過する車のために道路をつくる必要があるのか。道路に使うお金があれば、福祉に使ってほしい。
- ・以前、補助133号線ができることにより、周辺的生活道路での交通量や事故の増減がどうなるかのシミュレーション結果を探してみたが、見つからなかった。子育て世代としては、道路ができるとなると、将来、通学路にも影響するだろうし、そのような情報が見当たらなかったのが、今回残念だった。どうせ整備するなら、子どもにとってメリットのある通りやすい道になればと思う。
- ・防災、利便性、よりよい環境、雇用の創出の観点から、この道路の完成で成功事例を是非作ってほしい。
- ・グループ内で、道路行政は道路を通すことだけではないという話になった。高齢者にとっての交通手段や子どもの交通安全、自転車教育、事故を減らす工夫、電線をどうするのかなど様々な意見が出た。その地域で生活する方々にどう影響するのかを考えるのが大事だと思った。栃木は道路が通れば便利になるが、東京はそうでもないと思った。
- ・半世紀以上も前の計画の見直しを希望する。日々の生活を営む住民の方々がいるため、立ち退くとなると、大変な税金がかかり、皆さん不安に思っている。もう一度この計画を見直してほしい。

岸本区長の発言内容（プレストを終えて）

皆様、2時間以上にわたってお疲れ様でした。

今日は、「さとことプレスト（補助133号線周辺地域）」2回目で、今回も活発な議論をされていましたが、この対話を通して何を掴み取るかが職員含め私自身の挑戦だと思っています。今この議論をすることは重要だとはいえ、まずは基礎となる情報が足りないというお話もありました。道路を整備することで、防災面ではどのように道路が役立つのか、交通量で見ると、車や事故が増加するのか減少するのか、安全性が向上するのか低下するのかなど現状では観念的にしか考えられず、議論するには、圧倒的な情報とシミュレーションが必要だと感じました。必要な情報が揃って初めて私たちは、「本当にこの道路が必要なのか」という問いに対して、議論できると思います。

補助133号線は東京都の事業であり、まだ事業決定されておらず、先ほど申し上げた情報を基礎自治体である杉並区も持ち合わせていないのが現状です。事業決定されて初めて住民が得ることができる情報はありますが、事業決定されてからでは変えることはできません。住民は、事前に多くの情報を伝えてもらえない。自治体は、事業決定したら変えられない。このような住民と自治体の関係性を続けている限りは、100年後どのようなまちでありたいか、子どもたちが幸せな未来を描くための議論ができないし、大まかな合意を得ることもできないと思います。

杉並区から、そのような関係性を変えていきたい。

まずは、賛成か反対か判断する前に十分な情報が必要です。そして、特に防災に関して、災害と一言と言っても、大震災や火事など様々あるため、一緒くたに議論するのではなく、災害の種類・スケールに合わせた防災について具体的な議論をする必要があります。また、緊急車両が通れるか否か一番知っているのは、地域にお住いの方々です。東京都に協力を仰ぎつつ、今日お話にも出たような住民の方々をもっと知りたい情報を提供していく必要があります。

道路整備には非常に多くの時間がかかります。道路整備をせずとも、現状の課題が解決できるのかという具体的な議論をするためにも、地域住民との対話の場として、「(仮称)デザイン会議」を立ち上げたいと思っています。この「(仮称)デザイン会議」を、道路をつくるための会議ではなく、自治体がやらなければならない情報収集やシミュレーション等を整理した上で提供し、確かな情報を基に皆さんの発想を具体的に議論する場となるよう考えていきたいと思っています。

本当にお疲れ様でした。ありがとうございました。